



本年度の目指す生徒の姿

- 夢や希望を抱いて未来を描き、その実現にチャレンジする生徒
- 自分の能力に気づき、主体的・自律的な学びに真摯に取り組む生徒
- 多様な価値観を尊重して他者と協同し、共に成長する生徒

取組の視点

- よりよく生きるための基盤となる健やかな心と身体を育てる。
- 生徒の強みや可能性を引き出し、主体的・自律的な行動につなげる。
- 仲間との信頼関係を築き、協力できる豊かな感性を育てる。
- 生徒の実態に即して、各教育活動を体系的に実施する。

努力点	学校自己評価				学校関係者評価	
	本年度の具体的方策	評価指標	評価結果			次年度以降への改善策
安全・安心な 学校生活の提供	「困り感」を抱える生徒について、SSWやSCと連携を図るとともに、教員間の共通理解を深め、生徒に寄り添った指導に努める。	連携・共通理解を通して、生徒に寄り添った適切な対応ができていると答えた生徒・保護者の割合 (本校の教育活動に関するアンケート[生徒・保護者]) 80%以上・A 60%以上・B 60%未満・C [昨年度:教員対象の評価 100%]	A 90%	A	教員の研修機会を増やし、その成果を生徒の指導・支援に活かす。	SC・SSWとの連携、教員間の情報共有によって、支援体制が確立されている。いっそう工夫を凝らし、「困り感」を抱えた生徒に寄り添う指導に徹してほしい。
主体的・対話的な深い学びの研究と実践	「学習状況確認表」及び「学習状況通知」の記入や確認のしかたを指導して自己管理を促すことで、学習意欲の高まりを実感させる。	「学習状況確認表」及び「学習状況通知」を活用して自己管理に役立て、学習意欲を実感した生徒の割合 (生徒アンケート) 80%以上・A 70%以上・B 70%未満・C	B 75%	B	「学習状況確認表」の記入状況を定期的に確認する場を設ける。さらに「自己管理の仕方」をコレスポンド通信等で周知する。ICT支援員にも役割を担わせ、ICTを利活用した授業の質の向上を図る。	出席や学習に関する自己管理は、目的意識をもって自ら律する必要がある。このことがあまり得意でない生徒には、教員と一緒に取り組み、主体的に関われたという自信を持たせると良い。また、実践的な教員研修を通じ、引き続きICT機器を活用した授業の質の向上も目指してほしい。
	先進的にICT機器の活用等に取り組んでいる「理数探究基礎」を授業研究の対象とし、職員研修の充実と授業改善に役立てる。	研修・授業改善の充実が図れたと答えた職員の割合 (職員アンケート) 90%以上・A 80%以上・B 80%未満・C	B 80%			
キャリア発達・ 進路実現を促す活動	生徒に対応したキャリア発達の支援をするための、HR活動や学校行事を計画・実施する。	キャリア発達を支援するHR活動や学校行事ができた回数 (年間) 5回以上・A 2回以上・B 2回未満・C [過去3年間の平均:5回程度]	A 7回	B	生徒の現状に併せた学校行事の精選を行い、ニーズに見合う実施形態で行えるよう工夫する。キャリア発達の支援については、低年次からの意識付けを行うため、啓発活動を進める。	進路意識の啓発と、これに並行した実践的な就業(アルバイト等)や企業見学を勧奨していくことは、卒業時の進路未定・在家の生徒数の減少に向けた有効な方策になる。多様性が求められ、働き方にも変化が求められる昨今においては、さまざまな働き方・生き方を提示する必要がある。何のために就職するのか、あるいは進学するのかを、生徒一人一人の興味・関心と結び付けて考えさせると良い。地道に、生徒の目的意識を醸成し続けてほしい。
	進路講座の受講者数及び校外模試、各種検定の受験者数を増やす。併せて、進路説明会や進路講演会などへの参加者数を増やす。	進路講座受講者・校外模試などの受験者・進路行事に参加した生徒の割合(昨年度比) 10%以上増加・A 10%未満の増減(ほぼ同じ)・B 10%以上減少・C [昨年度:のべ約400人]	B 同程度			
	就職希望者の主体的な進路選択と決定を支援するために、多くの企業見学の機会を確保する。	卒年次生の企業見学の件数の割合(昨年度比) 10%以上増加・A 10%未満の増減(ほぼ同じ)・B 10%以上減少・C [昨年度:約40件]	B 同程度			
開かれた学校、 地域との連携・協働	生徒・保護者に対する情報提供を十分にを行い、双方向での情報共有ができるようにする。	学校情報が適切に提供され、情報共有ができたと回答した保護者の割合(本校の教育活動に関するアンケート[保護者]) 90%以上・A 70%以上・B 70%未満・C [昨年度:100%(一部改変)]	A 100%	B	メール配信システムの登録数を増やし、情報共有を容易に出来るようにする。他者との交流を目的として、行事での社会体験の機会を増やす。	保護者アンケートの回収率の向上には、工夫が必要であろう。Web回答を求めるならば、面談などで保護者が来校した際にメール配信システムの登録を促したり、この方法を教えたりすると良い。一方、特別活動では、他者との交流を通じて、「自身の役割が発見できる」という醍醐味を実感できる。今後も、生徒の精神的な成長のために、さまざまな社会体験の機会を提供してほしい。
	外部と交流する特別活動を実施し、社会生活における自身の役割に関する気づきを促す。	自身の役割を発見できたと答えた生徒の割合 (生徒アンケート) 90%以上・A 70%以上・B 70%未満・C [昨年度:94%(一部改変)]	B 89%			
心身の健やかな成長	スクーリングの際の保健体育科の学習及び体育的行事の活動における指導を通して、心身の健康の向上を図る。	心身の健康への関心が高まり、向上したと答えた生徒の割合(生徒アンケート) 90%以上・A 70%以上・B 70%未満・C [昨年度:80%(一部改変)]	B 80%	B	自宅でできる健康・体力増進のための情報提供の機会を増やす。	健康意識の向上や体力の増進について、機会あるごとに啓発し続けるのは良い。各種健康診断の要精密検査受診者には、積極的に受診を促してほしい。
豊かな人間性・社会性の育成	生徒のニーズに応じ、内部・外部の人的資源の利活用を積極的に行う。	人的資源の活用数(のべ人数) 15人以上・A 10人以上・B 10人未満・C [昨年度:のべ14人]	A 16人	B	各種行事で生徒間の交流が出来る機会を増やす。クリーン運動を中心とした交流の場を提供し、社会貢献についての意識を高める。	人的資源の活用では、その人材の母数を増やすために、ふだんから新たな人材の発掘を意識しておく必要がある。一方、クリーン運動では、生徒間、生徒・教員間の交流を深める取組が実施されている。この取組を、今後もさらに拡充してほしい。
	クリーン運動において、教員・生徒が互いにコミュニケーションを図り、交流が深まるように支援する。	クリーン運動において、交流が深まったと答えた生徒の割合(生徒アンケート) 90%以上・A 70%以上・B 70%未満・C [昨年度:100%(一部改変)]	B 80%			